

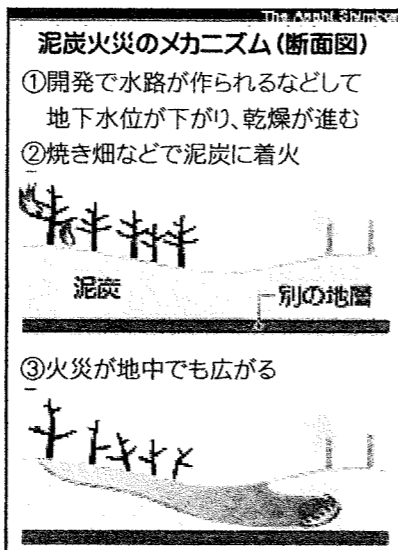
リレー記事 No.70

北九州発の新技术が泥炭火災を救う!?

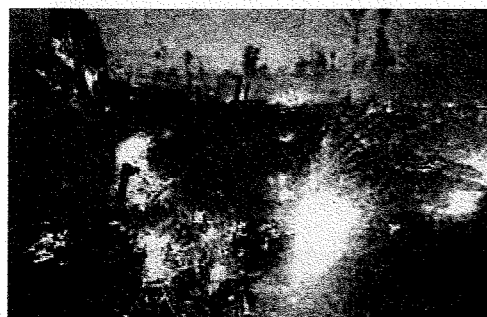
長い年数をかけて植物が堆積してできた泥炭層の火災のことを泥炭火災といいます。泥炭火災では地表から1メートル程度の地中で600~700度で燃え続け、大量の煙と二酸化炭素(CO₂)が放出されます。国際湿地保全連合によると、泥炭火災で放出される二酸化炭素は年約1.4億トンで、日本の年間排出量約1.3億トン(2006年度)を上回ります。

インドネシアには熱帯地域の泥炭地の約7割が集中していますが、木材、紙パルプ、パームオイルの世界需要が高まるに連れ、森林伐採や、農業開発に伴うかんがい用水工事で地下水位が低下し、泥炭地の乾燥が進み火災が頻発をおこっています。火災現場では、木々だけでなく、地面から数十センチの深さまで泥炭がえぐれるように焼失し、自然界が数千年かけて蓄えた炭素が火災によってCO₂として地球に放たれたことになるそうです。

このような泥炭火災は一度火が付くと地中でくすぶり続け、地表からの放水では消火が難しく有効な手だてがなく地球温暖化の大きな原因の一つとされています。



その対策として、北九州にあるシャボン玉石鹸と北九州市立大と市消防局が世界の温暖化抑制をめざし共同で泡消火剤を開発したという記事を見つけました。



▲泥炭火災のようす

泡消火剤は、泡で表面を覆って空気を遮断するため、炭素の酸化を抑制して火を消すのだそうです。天然石けんが主成分のため、環境への負荷もほとんどなく、水の使用量を10分の1程度に抑えることができ、水資源が貴重な地域にとってもこの開発に大きな期待がよせられます。この実証実験では、泡消火剤に加えて、地中への浸透性が高い消火剤も新たに開発し、地上と地中からコストのかからない効果的な消火法が探られています。

地球温暖化防止にむけた九州発の新技术で、「泥炭火災」の問題の解決にむけた世界初の実証実験を応援したいと思います。

〈N・N〉

〈参考〉西日本新聞ホームページ2012/4/2 朝日新聞ホームページ2007/10/6

西部ガス(株)×エコけん

平成23年度「ふくおか協働社会づくり表彰」受賞しました!

福岡県では、平成20年度より、NPOと企業・団体等との協働を推進するとともに、NPOの社会的信頼性をさらに高めることを目的に、「ふくおか共助社会づくり表彰」を実施しています。今年度は、51件の活動に取り組む66団体からの応募があったそうです。それらの応募に対し、有識者による選考委員会において審査を行った結果、本年度は、18件の活動に取り組む29団体が表彰されることになり、そのひとつとして西部ガス(株)×エコけんの協働事業も選ばれました。

協働部門賞に選ばれた西部ガス(株)×エコけんの協働事業の内容は次の通りです。

ガス調理器具を用いた「お手軽環境保全」普及事業	NPO法人エコけん	[概要]炊飯方法の工夫・見直しによるCO ₂ 削減効果について、実証データに基づく分析を行い、日常生活の中から取り組める環境保全活動を地域に広げる取り組み。
	西部ガス株式会社	[成果]生活者からの視点で環境保全を推進するユニークなNPOの活動をガス事業者の技術的支援により地域に分かりやすく広げている。お互いの強みを持ち寄った協働の模範というべき取り組みである。

この事業は、本年度も継続を前提に西部ガス(株)さんと協議を進めているところです。本事業を通し、毎日の暮らしの中の「お手軽環境保全活動」が広がり、暮らしの当たり前として定着していけばいいなと思っています。

協働にはすりあわせの手間暇は必要ですが、かけ算の効果が期待できます。これからも互いの持ち味が活きるような、そんな協働の小さな芽を粘り強く育てていきたいものです。



▲3月29日(木)ホテルレガロ福岡 授賞式のようす

〈S〉



つれづれ草枕

昨年春、古賀市グリーンパークで野ウサギを発見しました。そして今年の春、久山町の猪野神社近くの農地の中に鹿がいました! すぐそこ10m位の距離に。しかですよ! 野生のしか!! しかも5匹!!! 野生の動物たちも、意外と近くに生きているんですね。

【つぎはぎ俳句】 春や春 ひねもすくっすり 午睡かな (日女)



エコけん研修に行ってきました!



4月16日(月) 今年、エコロの森の「わくわくバスハイク」^{*1}「福岡県小学生対象3R見学会」の下見を兼ね、糸島方面に向かいました。あおやぎ古賀会館のバスを借り、「糸島みるくぶらんとでバター作り体験と牛舎見学」「糸島の海の幸昼ごはん」「芸術村散策」「マイバックでお買い物in伊都菜彩」というスケジュールでした。

今回の参加者は、会員に加え日頃お世話になっている方々。バスの中では恒例「ご当地クイズ」でテンションも上がり、楽しい一日となりました。

■糸島みるくプラント

糸島みるくプラントの「伊都物語」は、“低温殺菌ノンホモ”牛乳と飲むヨーグルトです。紙パックだけでなく、瓶入りもありました。

【バター作り体験】

200ccの瓶入り^{*2}ノンホモ牛乳を半分くらい飲み、残りを一心不乱に振ります。腕がだるくなり、あきらめかけた時、ぷつぷつしたバターが表面に浮いてきます。ふんわりおいしいバターのできあがり。塩味の効いたクラッカーと食べるとたまりません。牛乳は、低温殺菌で、さっぱりとくせのないおいしさ。最後に寄った「伊都菜彩」のソフトクリームにも使われているそうです。



▲一生懸命振ってやっとできたバターは、格別!

試飲で「飲むヨーグルト」もいただき、盛り上がりました。

【牛舎見学】

工場から5分程度の牛舎を見学。あまりくさくさく意外でした。牛の糞を決まった場所でさせることで人手が少なくてもきれいな状態に保てるそうです。牛は7、8回子どもを産み乳を出します。夏場、牛は食欲がなくなり乳の出も悪くなります。牛は、ご飯を食べお乳を出してのんびりくつろいでいました。牛さんありがとう、と頭を下げたくなりました。



^{*1}福岡県小学生対象3R見学会：エコけんが今年挑戦する県の委託事業

^{*2}ノンホモ牛乳：ホモジナイズド（成分中の乳脂肪を細かくする加工）処理をしていない牛乳

《ひらっち》

次回のエコけん1%クラブ



5月11日(金) 15:00~1時間程度 エコロの森近隣 ごみ拾い



未来を創ろうインタビュー

No.11 イオンモール福津

ゼネラルマネージャー 真崎 健一 氏

福津市に新しくできる「イオンモール福津」ゼネラルマネージャーの真崎健一さんにお話しを伺ってきました。

インタビューにうかがう2週間ほど前、エコけんは、「イオンモール福津」の植樹祭に参加しました。その折、「鎮守の森の中のショッピングセンターに」というコンセプトと、敷地の広さにびっくりしたばかりです。今回は、オープンを控え、慌ただしく準備が進む建物の中を見せていただきながら、お話しを伺うことができました。お忙しいところ快く取材を受け入れてくださった真崎さんに、その旨お礼を言いますと、「名誉会長が環境保全にはとりわけ意欲的で、地域で環境活動されている方のことは、私たちも知っておきたいのです。」とおっしゃってくださいました。



▲eco検定合格証をお持ちです

施設に設置された太陽光発電装置は、同様施設としては九州最大規模だそうで、その発電量や電力使用量などは、アニメーションの中でリアルタイムに確認できる楽しいモニターパネルも置かれていました。そのほかにもLED電球照明が90%を超えるというお話しや、雨水の中水利用、節水トイレの導入など、企業成長は20%増にもかかわらずCO₂は30%減(2006年比)もうなずける実践が随所に見られました。



▲テナントさんも自分でごみ計量

また、植樹祭でいただいたエコバックには、3R推進のための廃棄物17分別表が記載されたイオンモール環境読本が入っていましたので、その点について、お聞きすると、なんと、イオンモール福津では22分別されるとのこと。「では、見に行きましょう。」と連れてきていただいた廃棄物集積所では、店内のお店から持ち込まれるごみひとつひとつを、担当の方が分別の仕方を厳しくチェックされており、全て計量された後、所定の場所に置くシステムになっていました。施設規模からすると集積所はかなり小さめで、そのことも驚きでした。

真崎氏からの 未来を創るメッセージ

捨てたらごみ、活用すれば資源。3R!

今回の取材を通し、会社全体で環境配慮を実行しようとする、意欲の強さをひととき感じました。それは、スタッフハンドブックの「環境を考える」という項の内容からも、社員にeco検定を勧めているというお話しからも、うかがい知ることができました。私たちも地域の環境NPOとして、ソフト面からご協力できるといいなと思いました。 《S》

思いを形に

特定非営利活動法人 **エコけん**

〒811-3114 福岡県古賀市舞の里5-24-13

【TEL/FAX】092-944-6450 【E-mail】eco_ecoken@ybb.ne.jp

【URL】http://www10.ocn.ne.jp/~ecoken